

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
医学部保 健学科理 学療法学 専攻	3 人	4 人	0 人	2 人	9 人	6 人	7 人	0 人	0 人	8.6 人	
計	3 人	4 人	0 人	2 人	9 人	6 人	7 人	1 人	1 人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	基礎系 学術リテラシー データサイエンス リテラシー	16	平井祐樹、他	兼任
		基礎系 統計，科学史，現 代社会論，健康	30	森田 洋、他	兼任
		基礎系・言語 英語，中国語，ド イツ語，フランス 語，ハングル，ス 페인語	60	リアナ ジョセフ、他	兼任
		教養系 人文・社会，自 然・技術，環境・ 健康	60	小池洋平、他	兼任
		専門基礎系 言語，基礎科学	30	安達弘通、他	兼任
		教育学	30	荒井英治郎、他	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達	生化学	15	松田和之	専任
		生理学	15	安尾将法	専任

		生理学実習	30	安尾将法	専任
		組織学	15	寺田信生	専任
		系統解剖学	15	寺田信生	専任
		中枢神経解剖学	15	寺田信生	専任
		肉眼解剖学実習	30	寺田信生	専任
		運動学	30	百瀬公人、他	専任
		人間発達学	15	西澤公美、他	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	栄養学	8	矢崎正英、他	専任・兼任
		病理病態学Ⅰ	15	太田浩良	専任
		微生物と感染	15	松本竹久	兼任
		遺伝と病気	15	中山佳子、他	専任
		臨床医学概論	15	伊澤 淳、他	専任・兼任
		内科学	30	伊澤 淳	専任
		整形外科学	30	青木 薫、他	専任・兼任
		精神医学Ⅰ	15	杉山暢宏	専任
		小児科学	15	中山佳子	専任
		臨床神経学	30	矢崎正英	専任
		薬理学	15	内藤隆文	兼任
		高次脳機能障害学	15	杉山暢宏	専任
		救命蘇生学演習	8	池上俊彦	専任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	健康科学概論	15	會田信子、他	専任
		公衆衛生学	15	横川吉晴、他	専任
		保健・医療・福祉政策論	15	會田信子、他	専任
		国際医療協力論	15	五十嵐久人、他	専任
		リハビリテーション概論	15	青木 薫、他	専任
		生命倫理学	8	玉井真理子	専任
		臨床心理学	15	玉井真理子	専任
		チーム医療演習	10	木村貞治、他	専任
		新入生ゼミナール	10	木村貞治、他	専任
	基礎理学療法学	理学療法概論	15	横川吉晴、他	専任
		運動学実習	45	百瀬公人、他	専任

		運動学習理論	15	木村貞治、他	専任
		理学療法研究法	30	横川吉晴、他	専任
		卒業研究	45	百瀬公人、他	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	百瀬公人	専任
	理学療法評価学	理学療法評価法Ⅰ	30	小宅一彰、他	専任
		理学療法評価法Ⅱ	30	北川 孝、他	専任
		理学療法評価法実習	30	百瀬公人、他	専任
		臨床能力演習	30	百瀬公人、他	専任
	理学療法治療学	運動療法基礎論	15	西澤公美、他	専任
		物理療法基礎論	15	小宅一彰、他	専任
		臨床物理療法	30	小宅一彰、他	専任
		徒手療法基礎論	30	木村貞治	専任
		理学療法治療法	30	百瀬公人、他	専任
		義肢学	15	青木 薫、他	専任
		装具学	30	青木 薫、他	専任
		運動器疾患の理学療法(含む演習)	30	木村貞治、他	専任
		神経疾患の理学療法(含む演習)	30	小宅一彰	専任
		内部障害の理学療法(含む演習)	30	百瀬公人、他	専任
		小児系の理学療法(含む演習)	30	西澤公美	専任
		理学療法治療法実習	30	百瀬公人、他	専任
		スポーツと理学療法	15	木村貞治、他	専任
	地域理学療法学	日常生活活動	15	横川吉晴、他	専任
		地域理学療法学	30	横川吉晴、他	専任
	臨床実習	臨床基礎実習	50	横川吉晴、他	専任
		地域理学療法学実習	25	横川吉晴、他	専任
		臨床実習Ⅰ	150	横川吉晴、他	専任
		臨床実習Ⅱ	150	横川吉晴、他	専任

		臨床実習Ⅲ	150	横川吉晴、他	専任
--	--	-------	-----	--------	----

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法関連施設における，理学療法士およびその他の専門職種の役割・業務の見学	1 年前期	理学療法学概論	1 年前期
		新入生ゼミナール	1 年前期
理学療法の各種評価方法の見学と実践	2 年後期	運動療法基礎論	1 年後期
		理学療法評価法 I ・ II	2 年前期
		運動学実習	2 年前期
		日常生活活動	2 年前期
		整形外科学	2 年前期
		内科学	2 年前期
理学療法の治療の見学と実践	3 年前期	理学療法治療法	2 年後期
		臨床物理療法	2 年後期
		運動学習理論	2 年後期
		臨床神経学	2 年後期
		小児科学	2 年後期
理学療法の評価・治療・管理業務等の総合的な実践	3 年後期 4 年集中	運動器疾患の理学療法（含む演習）	3 年前期
		神経疾患の理学療法（含む演習）	3 年前期
		内部障害の理学療法（含む演習）	3 年前期
		小児系の理学療法（含む演習）	3 年前期
		義肢学	3 年前期
		臨床能力演習	3 年後期
		徒手療法基礎論	3 年後期
		スポーツと理学療法	3 年後期
		地域理学療法	3 年後期
		装具学	3 年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3

	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	教務委員会
委員名（委員長）	會田信子
組織の開催頻度	1ヶ月に一度
組織の取り組み内容	・教育プログラムの点検・評価と教育改革への提言
	・学修目標への到達度の分析と学修目標の見直し
	・学生による授業評価結果の分析
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 (URL : https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/disclosure/corporation/check/upload_file/2019年度外部評価報告書.PDF)

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	保健学科各専攻の教務委員
	改善の仕組みの実際	・年1回FDでシラバス作成の講習会を全教員が参加し、シラバスの質の向上を図っている。 ・教務委員が保健学科全シラバスを点検し、適宜修正を行っている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

2021年に実施された一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の教育評価認定審査において、本学は、適合（S）の最高グレードの判定を得ている。 教育の内部質保証の一環として、シラバスガイドラインに基づく教員間のシラバス点検を実施し、教育内容の精査を行っている。 さらに、学生による授業アンケートや教員による授業アンケートを実施し、教育の質向上に向けたフィードバックを収集している。これらのアンケート結果を分析し、授業内容や教授法の改善点を明らかにすることで、教育の実践に反映させている。 また、FD研修を積極的に開催し、教員の教育スキル向上を図るとともに、新たな教育手法の導入や最新の教育理論の理解を促進している。 教育改革に向けた組織的な取り組みとしては、専攻内あるいは専攻を越えた議論を活性化させ、教育改善に取り組んでいる。 自己点検票に基づいた改善点を専攻内で共有・検討することで、組織的かつ計画的に教育改革を推進している。
